

# 熊大通信

vol. 60  
2016 SPRING

## 巻頭学長インタビュー

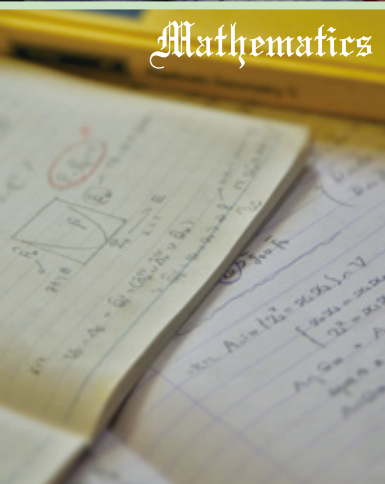
先輩に聞く! —— 学生生活、研究、そして夢。

特集Ⅰ

## 学問を語ろう。

特集Ⅱ

## 熊本大学教育学部附属 特別支援学校の50年





# 熊大通信

vol. 60  
2016 SPRING

## CONTENTS

- 03 巻頭学長インタビュー
- 05 特集Ⅰ 学問を語ろう。
- 11 研究室探訪 基礎、臨床、そして技術開発  
実学である薬学を支える3つの柱  
大槻 純男研究室
- 13 特集Ⅱ 熊本大学教育学部附属特別支援学校の50年
- 15 国際交流 熊大で「日本」を学ぶ留学生座談会  
熊大生に助けられて、  
やりたいことに取り組みます。
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

### 旅する熊大

教育学部附属特別支援学校創立50周年イベントの一つとして、体育館の正面外壁に児童・生徒たちが描いた「夢と希望」を表す壁画が描かれました(P13-14に詳しく紹介しています)。

### 熊本大学広報誌 熊大通信

\*皆さまの意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学  
〒860-8555 熊本県中央区黒髪2-39-1  
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007  
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会  
大日方信春 / 委員長 法学部  
大野 龍浩 / 文学部  
松永 拓己 / 教育学部  
岡本 洋一 / 大学院法曹養成研究科  
光永 正治 / 大学院自然科学研究科  
緒方 公一 / 大学院自然科学研究科  
谷口まり子 / 大学院生命科学研究部  
首藤 剛 / 大学院生命科学研究部  
田中 尚人 / 政策創造研究教育センター  
西川 洋子 / マーケティング推進部広報戦略ユニット

【制作】 株式会社 談

表紙/学長をインタビューしてくれた文学部コミュニケーション情報学科の学生と原田学長及び特集1で紹介した学問を象徴するコラージュ。

※本誌記載の職名・学年等は取材時のものです。



# 先輩に聞く!

## 学生生活、研究、そして夢。

運動も恋愛も学生時代を充実させる

神崎:学長は、私たちの先輩でもあったんですね。  
学長:医学部出身です。学生時代は軟式テニス部に入っていて、真っ黒になっていました。実は僕は学生結婚なんですけど、結婚式の写真は白無垢の妻の横で僕が真っ黒なわけ(笑)。当時はキャンパス内にテニスコートもあって、先輩や後輩としてちょっと顔を合わせて勉強や研究の話もできた。運動も恋愛も学生時代を充実させてくれます。人を好きになることは、どんな関係においても大切なコミュニケーション能力につながると思います。

萩尾:では、医者を目指されたんですね。

学長:最初は外科医になるつもりだった。ところが大学院で、研究のおもしろさに目覚めたんです。専門はウイルス学です。

### 研究は推理小説を読むようなもの

藤村:ウイルス学に興味をもったきっかけは。

学長:大学院で配属された研究室の教授から、ガンと免疫をテーマにと言われ、ウイルス学の権威、白沼頼夫教授を訪ねたことがきっかけです。僕が日沼教授のウイルス研究から思いついたガンの研究テーマを話したら、教授は、ゼミ生でもない私にぜひやらないかと、モデルになる論文が載ったネイチャー誌を渡してくれました。大学院修了後はアメリカに留学。留学最初の年にエイズが発見され全米に広がったんです。僕はウイルス学で留学していたので、エイズの研究プロジェクトに参加しました。帰国後は山口大学、京都大学を経て、熊本大学医学部の感染防御という講座の初代教授になりました。

藤村:臨床から基礎研究へと転身された、「研究のおもしろさ」とは何だったのですか。

側の腕次第です。興味を見つけることは教わる側の義務でもあります。本当の興味を得るためには、ジャンルを問わず自分の興味を深掘りする習慣を身につけることです。

### 人生を分けるような

### いい指導者を選んでほしい

神崎:熊本大に来たからできたことがあり、出会った人がいます。新入生やこれから入学してくる後輩には、そこを大事にしてほしいと思います。

学長:熊本大では平成29年度から、最初の2年間は英語を主体に教養教育を受け興味を探し、一致すればその専門に進むというグローバルリーダーコースが設置されます。文理融合型で一緒に学び、専門性を越えた仲間づくりをしてほしいこと、それと、教養教育で国際性と専門性も兼ね備えた人材をつくる、そのモデルケースです。

そんな仲間づくりも大事だし、もう一つ言いたいのは、人生を分けるきっかけになるのは指導者だということ。いかにいい指導者を選ぶかです。僕の場合は日沼教授で、あの人のもとに行かなければ今の僕はありません。そんな魅力ある指導者のもとに行くことも学生さんの才能の一つです。そんな人の指導を受けたうえで自分の将来を決めてほしい。そのために、魅力ある指導者が多く集う大学になることが、私たちの責任だと考えています。



文学部 コミュニケーション情報学科3年  
神崎 葵 (かんざき あおい)  
鹿児島県立出水高等学校出身

萩尾:それと、出会いを大切にすること。高校は割と似たような人間が集まるけど、大学はいろんな人がいます。出会いを大切に自分で生きていくためのつながりを構築する場所が大学だと思います。

学長:どんな専門分野も、教養をもとに学ぶと非常にプラスになります。たとえば医学部の学生も教養で肥後熊本学を受ける必要があります。熊本のいろんなことを学ぶ肥後熊本学では、医師不足という地域医療の課題が出てくる。教養で学んだことの中に専門にかかわる問題提起をすることもできるわけです。教育は専門だけで完結するものではないので、皆さんが何かに興味を持つきっかけを与えるのが教養教育でなければいけないと考えています。それは教養



文学部 コミュニケーション情報学科3年  
藤村 有紀 (ふじむら ゆき)  
長崎県立長崎北陽台高等学校出身



原田 信志 (はらだ しんじ) 学長  
熊本大学医学部卒、同大学院医学研究科博士課程修了。  
マサチューセッツ大学医学部病理学教室医学研究員、京都大学助教授などを経て1989年熊本大学医学部教授に就任。エイズ学研究センター長、大学院生命科学研究部長、理事・副学長などを歴任後、2015年4月より現職。

新たな年度の始まりは、新たな学びの始まりでもあります。特に新入生にとっては、未知の学びの場が待っています。熊大の先輩でもある原田学長に、マスメディア系の就職者も多い、文学部コミュニケーション情報学科の学生たちが、学長の経験を踏まえた大学での学びについて話を聞きました。

学長:研究は、推理小説を読むようなもの。仮説を立てて研究資料を使って試す。でも「犯人」が見つからない。だから別の手法で試す。それを繰り返して状況証拠を集めていく。新しい発見となる。「犯人」が見つかった時、これを求めていたんだ、と感じる。それがおもしろいと思いますね。

### 興味をもって突き進むと意識が何より大切

神崎:学生たちがそういう研究のおもしろさに目覚めるために、どのような指導をしてもらっていますか。  
学長:教員は、きっかけは与えるけれども、「教えない」。これが、27年間講義をやって、最終的に僕がたどり着いた教育法。だから学生さんには、興味をもってやろうとする意欲を持ってほしい。勉強でもサークルでも、読書でも恋愛でも、そこに向かって突き進む気持ちがないと、結局何もしなかった、ということになりかねません。

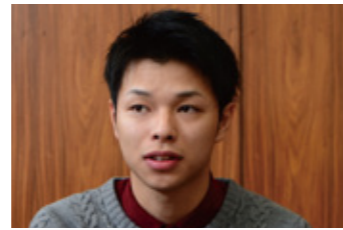
藤村:コミュニケーション情報学科に入った時は留学を考えていたんですが、今は目標が変わりました。大学は自分の時間も増えるし、自分でお金を稼いで好きなこともできる。入学してからでも目標が見つかりますから、時間を無駄にしないことが大事だと思います。

### コミュニケーション能力は教養から

神崎:つながりを構築するのに大切なのは、「コミュニケーション」。学長が考えられるコミュニケーション能力とは。

萩尾:所属する研究室の先生の読書量がすごくて、おもしろい本を教えてください。

学長:読んでみたら面白くて、週に5、6冊は読むようになっていました。しっかりと本を読む人は言葉が豊かな気がします。



文学部 コミュニケーション情報学科3年  
萩尾 寛太 (はぎお かんた)  
熊本県立熊本高等学校出身

学長:それはいいことです。ね。僕も一週間に2冊は読む。専門書じゃなく雑学や小説。半分は原書で読みます。教養を身に付けるのに、本が一番いい先生です。

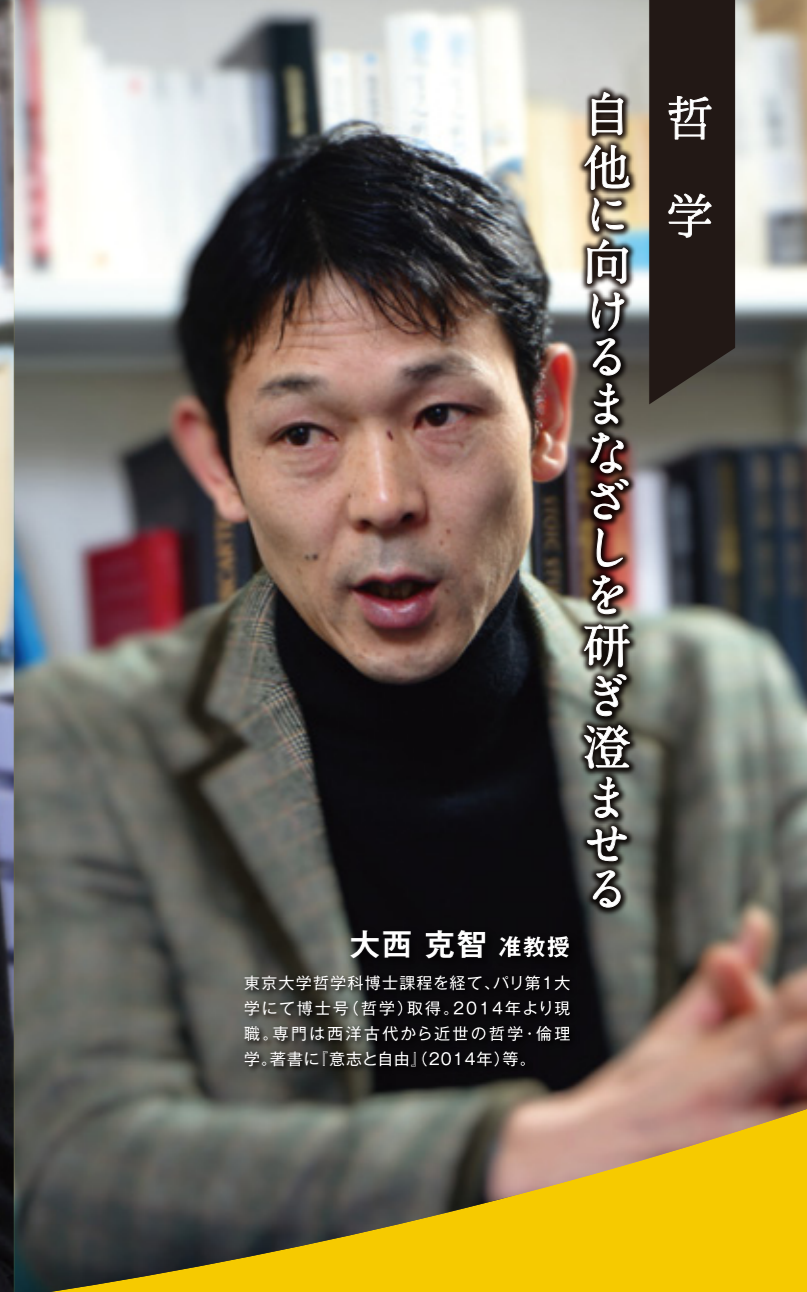
藤村:専門分野が違う人の話でも、本で読んだり教養課程で聞いたことがあることだと、興味を持てるようになります。神崎:先人の考え方を知る教養が、生き方になると思いますが。悩んでいる時に、昔の人が言っている言葉や考えに触れると、こんな考え方もあると気がかされます。

学長:どんな専門分野も、教養をもとに学ぶと非常にプラスになります。たとえば医学部の学生も教養で肥後熊本学を受ける必要があります。熊本のいろんなことを学ぶ肥後熊本学では、医師不足という地域医療の課題が出てくる。教養で学んだことの中に専門にかかわる問題提起をすることもできるわけです。教育は専門だけで完結するものではないので、皆さんが何かに興味を持つきっかけを与えるのが教養教育でなければいけないと考えています。それは教養



哲学

自他に向けるまなざしを研ぎ澄ませる



大西 克智 准教授

東京大学哲学科博士課程を経て、パリ第1大学にて博士号(哲学)取得。2014年より現職。専門は西洋古代から近世の哲学・倫理学。著書に「意志と自由」(2014年)等。

西洋法制史学

歴史をひもとき、今を考える



苑田 亜矢 教授

九州大学大学院法学研究科博士課程修了。北海学園大学法学部を経て、2009年に熊本大学法学部准教授、2016年より現職。専門は西洋法制史学。12・13世紀のイングランドを中心的な対象として、成立期コモン・ローとカノン法の相互関係を解明することが研究テーマ。

宇宙物理学

人はどこから来たのかを解明する



高橋 慶太郎 准教授

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。プリンストン大学、京都大学、名古屋大学を経て、2011年より現職。専門は、宇宙論、宇宙物理、電波天文学、宇宙生物学。

数学

論理的思考の過程で、魂を浄化する



古島 幹雄 教授

熊本大学理学部数学科卒、九州大学大学院理学研究科博士課程修了。琉球大学助教授、広島大学教授を経て、1989年熊本大学理学部教授、2006年大学院自然科学研究科教授、2015年より熊本大学理事副学長。この間、招聘研究員としてマックスプランク数学研究所、ゲッテンゲン大学数学科に滞在。専門は多変数複素解析関数論および複素代数幾何学。

特集 I

# 学問を語ろう。

学問の場である大学には、人類がこれまでに得た英知が、蓄積保存されています。大学で学ぶことは、その英知にふれ知的好奇心を満たすことです。人類の普遍的な疑問を解決する糸口が、大学にはあります。

学問と呼べるものの誕生は古代ギリシアだと言われます。「何」「なぜ」「何のために」という根源的な問いが…(中略)…その歴史的な形態をとったのは、紀元前六世紀初頭のギリシア文化圏において、最初の哲学者たちが世界を理性によって理解しようという試みを始めたときであった(クラウス・リーゼンファーバー『西洋古代・中世哲学史』)。その哲学的問いは、「真理をただ真理そのもののゆえに求めようとする人間の精神の覚醒からほとばしり出るものであった」(前掲書)。

このような真理への飽くなき探究心、「知りかつ認識しよう」という人間の精神活動のよりどころとして(西島建男『大学再考』)、大学は、中世西ヨーロッパに誕生しました。

人は時に、「自分とは何か」「人はどこから来たか」「この世界はどのように造られたか」といった自己の存在そのものに関わる問いかけをしないではいられません。この、人として普遍的な疑問に、人は繰り返し対峙してきました。その対峙の足跡こそ、学問という無形の文化であり、それを担い続けてきたのが大学といえます。

熊本大学で出会う学問の面白さを、先生方に語っていただきました。



おおにし よしとも  
大西 克智准教授

文学部  
コミュニケーション情報学科

### 言葉は思いのほんの一部 背景を知り初めて理解できる

「哲学は難解な学問のように思われますが、そうではありません。人を見る目を養う、そこに哲学のおもしろさがあります」。大西克智准教授は話をこう切り出しました。

人が文章を書く言葉は、その人が考えている中のほんの少し。だから、その人がその言葉の背後で何を考えているのかわらなければ、言葉を本当に理解したことにはならない。それを知ろうとすることから哲学は始まります。「それにはまず自分を知らないといけないんです。人間関係においても、嫌なことを言う人と関係を切るのは簡単ですが、もしかしたらその人の言葉には、自分が知らない配慮があるかもしれないと踏みとどまること  
が大切。そのためには、自分にはまだわからないことがいくつかあると知ること、つまり自分の無知を悟ることが不可欠です。自分は何もわかっていないと痛感した時、はじめて本当にわかりたい



ない」と踏みとどまること  
が大切。そのためには、自分にはまだわからないことがいくつかあると知ること、つまり自分の無知を悟ることが不可欠です。自分は何もわかっていないと痛感した時、はじめて本当にわかりたい

## 生き延びるための判断力と謙虚さを養う 自分の無知を悟る「哲学」

という気持ちが生れます。その時点で出せる答えを探しながら、その答えに満足してしまわないこと。哲学とは、そういう心の働きがどこから来るのかを見極めようとする営みでもあるのではないかと大西准教授。

### 哲学者の姿(生き様)が言葉の背後に見えてきた時、哲学を学び続けてよかつたと思う

大西准教授が哲学研究の道に入ったきっかけは、17世紀オランダの哲学者スピノザの「私たちは自分が永遠であることを感じる」という言葉でした。「対人関係のもつれなどで思い詰めることは誰にでもあるが、そんな悩みも「永遠の相の下で」見れば大したことではない」。この考えに惹かれつつも反発を覚えるなかで、哲学の世界へと踏み込んでいったそうです。

「言葉を読み解くのは、昔の人の考えを誤解から救い出すためでもあります。死んだ人が誤解されたままだとしたら不幸なこと、小さなことでも誤解を解くことが自分にできたと思う時、ちょっとは任務を果たせたなと。そういう点では、哲学とは昔の人に線香を立てるといふようなところがありますね」



大西准教授の研究テーマであるスピノザやデカルトの哲学書

### データにできない心の壁に分け入る学問

さらに大西准教授は、哲学がもつ一般的な役割について話します。「その人は何を考えてその言葉を使ったのか、できる限り想像する力が大人には当然に求められます。哲学は、先人が遺した文章を素材にしなから、人が現実の社会で生きてゆくために必要な判断力と謙虚さを養い、自分と他人に向けるまなざしを研ぎ澄ませる学問でもあると私自身は考えています」

科学的なデータでは扱えない心の壁に分け入り、人間理解を深める、哲学は人が生きる姿勢につながる学問です。

## 西洋法制史学

歴史をひもとき、  
今を考える

そのだ あや  
苑田 亜矢教授

法学部 法学科

### 西洋法と日本法を視野に 過去の法の歴史的意義を明らかに

西洋法制史学とは、刻々と変化する現行法を常に意識しながら、現行法の礎になっている過去のさまざまな法原理、法制度を考察し、その歴史的意義を明らかにすることを目的とした学問です。「西洋法と日本法の両方を視野に入れますが、現行法を直接的に研究するわけではなく、法学と歴史学の両方の特徴を備えた学問と言えます」と苑田亜矢教授。西洋法制史学のおもしろさの二つに「現行法がなぜこうなっているのかを明らかにできること」があると言います。西



昨年で800年を迎えた「マグナ・カルタ」のレプリカ

## 過去の法から今を客観的に見る 法の歴史から考察する「正義とは何か」

洋で法典が現れるのは18世紀になってからであり(日本では19世紀)、「歴史的には無法典時代が圧倒的に長いのです。無法典時代の法と、法典に含まれる法がどう関係するのか、また法典を持たない国の法はどのようなものなのかを考えることはとても興味深いと思います」。過去の法と比較する視点から現行の法、法原理、法制度を客観的に見つめれば、人間にとって法とは何か、正義とは何かをもっと深く考えることができるのではないのでしょうかと話してくれました。

### 「完全ではない」社会で、 法を生み出る力を身につける

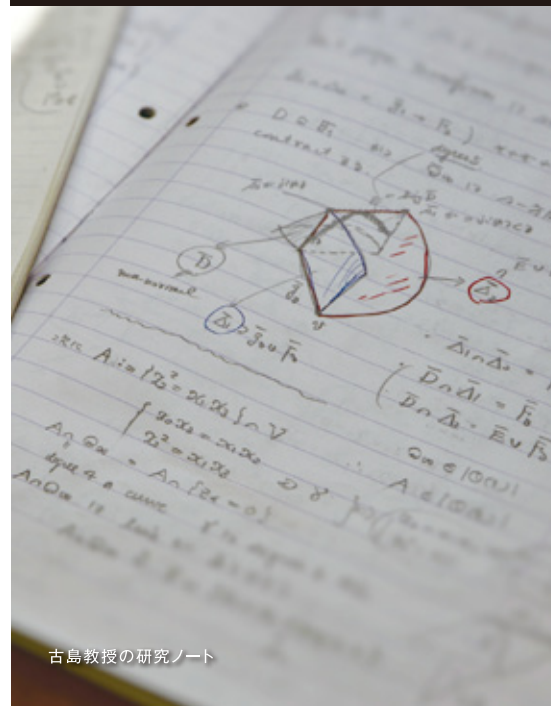
西洋法制史学について苑田教授は、「なぜ現行法がこうなっているのか、なぜこの原理が価値あるものとして明記されているのか、という経緯を知ることができ、今を考えることができます」と言います。たとえば、昨年で800年を迎えた1215年のマグナ・カルタは、立憲主義や近代的民主主義の礎だと位置づけられることがありますが、この位置づけは、イギリス革命前夜の反絶対王政の闘いの中で生まれた近代的解釈に基づいています。1215年のマグナ・カルタ第39条(今も法的に有効な1225年版では29条)の「同輩の判決」も陪審審理を指していたわけではない。陪審審理は1215年より後に成立するからです。また、成立当時の



人々は陪審審理を受けることを、権利などとは思わず、むしろ嫌がっていたようです。それはなぜか。陪審制度上の問題か、人間による判決への不信か……等々と歴史を知ったり考察したりすることは、今の日本の裁判員制度の課題を考えることにもつながるかもしれませんね」

定められた法やルールは議論の末の妥協の産物であり「民主主義的な制度とされる多数決でも、少数派は常に抜け落ちます。のちの社会で少数が多数になれば新たなルールができる運命が待っているかもしれない。私たちはそんな完全ではない世界に生きているという意識が大切です」。西洋法制史学では、「材料を集め証拠を集め、そこから事実を構築し問題を明らかにし、解決方法を見出す、そんな思考方法を提示できる学問です」と苑田教授。過去の政治的、経済的、文化的条件のもとで生みだされた法がどう用いられ、社会の影響を受けてどう変化したのか。考察から身につける思考方法によって、現代に生きる人間がおかれていますさまざまな条件を分析し、どのような法を生み出しどう用いるべきかを考えることができるようになるのです。





古島教授の研究ノート

# 宇宙物理学

人はどこから来たのかを解明する

高橋 慶太郎 准教授

大学院自然科学科学研究科  
理学専攻物理学科学講座

## 私たちがいる世界の根底に 何があるかを知るのが宇宙論

宇宙はどのようにして始まったのか。宇宙に果てはあるのか。誰もが素朴に持つ疑問です。「宇宙の始まりや進化を知ることについては、私たちが普段生活している世界の根底に何があるかを知ることなんです。知りたい」というのは人類の根源的欲求です。この欲求を満たすための研究であるからこそ、宇宙論や天文学には、「学問」の本来の性質や目的がわかりやすい形で表れていると思います」と高橋慶太郎准教授。私たちの世界観の根幹にかかわるからこそ、人は宇宙に興味を抱く。だからこそ宇宙の始まりや現在の姿を知るための研究は「人類としてやらなければならないこと」とだと高橋准教授は話します。



「宇宙の始まりにあつたのは、一番単純な元素である水素原子だけ。ビッグバンという大爆発の後、宇宙が冷えていく中でヘリウムやリチウムが形成されました。そして宇宙空間を漂うガス

# 人類の世界観の根幹にかかわるからこそ 人は宇宙へ興味を抱く

が集まって星になり、星の中の核融合反応で炭素や酸素、鉄などが合成されます。やがて重い星は超新星という爆発を起こし、合成された元素が宇宙にまき散らされ、それがまた次の星や惑星の材料になります。したがって私たちの体を作っている炭素や酸素などの原子も、遠い昔に存在した星の中で合成されたものなのです」。人はどこから来たのか。一見哲学や宗教的なこの問いに思わず頷いてしまつた答えを与えてくれる宇宙論に、一気に興味が深まります。

## 触れられない対象、実験できない 現象を物理学で解明する

宇宙物理学の研究対象は直接触ったり実験したりすることができないものではないので、天体から放射される電磁波を検出するしかありません。けれど、それこそが、宇宙物理学の面白さだと高橋准教授は言います。「あらゆる物質は、力学的、熱的、電氣的、磁氣的、光学的などさまざまな物理的性質を持っています。この物性を使って、宇宙を飛び交っている光や電波、ガンマ線などの観測から天体現象を研究していくわけですがそこに物理学の法則を用いることで、たくさんすることがわかっていくんです」。そして、そこから分かることが、現在スタンダードになっている世界観を覆してしまつた



国際電波望遠鏡計画Square Kilometre Arrayの完成予想図。直径15mの電波望遠鏡が地平線の彼方までずらりと並びます

# 数学

古島 幹雄 教授

論理的思考の過程で、  
魂を浄化する  
教育・学生支援担当副学長

## 境界が内部を決定する という原理を貫いて

古島幹雄教授が数学とともに生きて行こうと決意したきっかけは、有名な数学者である岡潔氏の数学的世界観との出会いです。「私が挑んだテーマは当時未解決の問題であった、複素数空間の解析的コンパクト化の決定問題で、端的にいえば、空間とその境界を合わせた空間はどのような幾何学的構造を持っているかを、現代数学のすべてを駆使して解明することです」。この難解な問題への挑戦において古島教授が信じ続けたのは、岡氏が貫いた「境界が内部を決定する」と

# 課題を見つけて解決するプロセスを 大切にすると、人間味にあふれた数学的世界

いう原理(一般哲学)です。

私たちが住む3次元の世界を複素数の世界に置き換えた空間に(解析的)境界を付け加えて得られる閉じた空間を3次元複素数空間のコンパクト化と呼びます。このとき、境界は2次元の閉じた空間になりますが、この境界情報から全体構造を決定してゆくというのが古島教授のテーマです。

## 学問や人との出会いで見方が変わり 違う発想ができるようになる

「岡先生の著書には「情緒」という言葉がよく出てきます。学生時代、論理や記号の世界に生きている数学者から「情緒」という言葉が発せられていることに、不思議さを通り越して新鮮味を感じました。そこで、哲学や美学、心理学といった学問に触れ、それらを感覚的に理解しようと思ひ、教養の授業に出ていました」。数学以外の学問や研究に触れる中で、古島教授は社会科学に出会います。「権力中枢(中)の矛盾は抑圧された民(境界)のみぞ知るといふ教養を聞いた、この考えを少し私の数学に取り入れ、ほんやりと考えているうちに、気がついたら問題を解決していました。いろんな学問や人との出会いは人の心境を深めるだけでなくもの見方も変え、結果、そこから新しい発想が生まれ出るようになります」。

## 学問による魂の浄化

数学が苦手という人はよく「分からない」と言いますが「実は、単に気がついていないだけのこと」と古島教授は言います。「実際、解答を種明かしすれば、大抵の人は理解してくれます」視点を変えて「気づく」ことが大切、と説く古島教授。

物事の本質を見極めるには、対象を抽象化したイメージの世界に巨身を置き、思い浮かぶ情景を数式に置き換えていくことが、求められます。「その過程で、自分の個性がどう表現できたかを問いなさず」で、魂は自然と浄化されてゆく、そういう楽しみ方も知って欲しい。数学と長く付き合う一つの知恵として、ドイツでの研究生生活時代に、そのような考えを持つに至ったそうです。





# 研究室探訪



## 基礎、臨床、そして技術開発 実学である薬学を支える3つの柱

### 薬 脳へのシャットアウトしてしまおう

新しい薬をつくる時は、最後に必ず人で試す臨床試験が行われますが、この臨床試験で成功するのはわずか。特に中枢(脳)とガンは薬は成功する確率がより低いことで知られます。「薬は体の中で血液に乗って運ばれますが、効いてほしいところに届かないなら意味がありません。ところが脳は、体の中でも薬が届きにくい場所。それは、血液脳関門と呼ばれる、関門があることが理由です」。通す物質と通さない物質を選んで血液脳関門は、「毒」の側面も持つ薬をシャットアウト。それが、脳疾患の新薬と期待されても、臨床試験が成功しにくい理由の一つになっています。

### 常に、患者さんという ゴールに向かう研究を

大槻教授はガンの分子標的薬をより有効に使うための技術研究にも取り組んでいます。「同じガンでも発現する量に差があります。私たちが持つタンパク質定量システムを使えば、薬に直接反応する分子(タンパク質)の数を正確に計測することができます。効率よく分子標

北大学時代から血液脳関門をテーマに研究を続けているのが大槻純男教授。「薬を小さなカプセルに入れて、血液脳関門が通す物質に付くと血液脳関門がぐいっと脳の中に入れてくれるのではないか。強制的に薬を入れるDDS(ドラッグデリバリーシステム)の実現を目指しています」と話します。

「薬学は実学なので最終的には医師と患者さんの役に立つことがゴール。だから、技術の開発にも力を入れています」。しかし、自分たちが開発したからと、その技術にこだわる必要はないと大槻教授。「大事なのは、常に遠くを見ること。遠くのゴールである患者さんのところに行く近道を見つけるには、近くばかり見ていたらだめ。将棋と同じです」。創薬はもちろん薬剤師になるとしても、そういう思いは必要だと大槻教授。「そのためには、学生からどんどん提案してほしい。この研究室で学生が取り組んだことで結果が出たものもあります。学生の提案と工夫から出た芽を、これから木に育てていくと話してくれました。

「薬学は実学なので最終的には医師と患者さんの役に立つことがゴール。だから、技術の開発にも力を入れています」。しかし、自分たちが開発したからと、その技術にこだわる必要はないと大槻教授。「大事なのは、常に遠くを見ること。遠くのゴールである患者さんのところに行く近道を見つけるには、近くばかり見ていたらだめ。将棋と同じです」。創薬はもちろん薬剤師になるとしても、そういう思いは必要だと大槻教授。「そのためには、学生からどんどん提案してほしい。この研究室で学生が取り組んだことで結果が出たものもあります。学生の提案と工夫から出た芽を、これから木に育てていくと話してくれました。

**lab's data**  
【大槻研究室テーマ】

- 研究テーマ
  - 血液脳関門、ガン
  - 質量分析
- 修論・卒論テーマ
  - 脳関門および小腸透過(DDS)
  - すいガン、脳腫瘍の早期診断法の開発

・新しい抗ガン剤の感受性機構の解明  
・脳関門機能と小児疾患の関連機構の解析

メンバー  
大槻純男教授、伊藤慎悟助教、平山未央助教  
博士後期2年1人、博士前期2年1人、  
博士前期1年3人、薬学科6年2人、薬学科5年2人、  
創薬・生命薬科学科4年4人、薬学科4年2人、  
創薬・生命薬科学科3年2人、薬学科3年2人、秘書1人

**Interview**

大学院薬学教育部 博士後期課程  
創薬・生命薬科学専攻 2年 久野 琢矢さん(左)

腸内細菌が薬物の動態にどう影響を与えるかが研究テーマ。実はすでに就職していて、会社員であり研究員でもある二足のわらじをはいています。大槻研究室は一人ひとりが自分の研究テーマを立て、自分の方針を持って進んでいて、いい意味で個人プレー。でも共同ミーティングは密に行い話し合いの機会は多いので、先輩も後輩もわけへだてなく協力し合える雰囲気があるのがいいですね。

大学院薬学教育部 博士前期課程  
創薬・生命薬科学専攻 2年 仲村 健司さん(右)

大槻研究室は先生との距離が近く、いろいろ気軽に質問できるのが魅力。だめなところはきちんと指摘してもらえるし、やる気があればいつでも助けてもらえる環境があります。研究はプロテオミクス。質量分析計を使ったタンパク質の発現量を見る技術の開発と応用をテーマにしています。教科書には載っていない、自分以外に知っている人はいない、という発見ができるのが研究の醍醐味だと思います。

**密着! 大槻研究室** 日々の実験やミーティングのほか、学生生活の思い出づくりも満載の研究室の毎日をご紹介します。

2015.11  
研究室主催のシンポジウム終了後の集合写真。研究室員全員が協力し、運営に参加することで無事に成功させることができました。

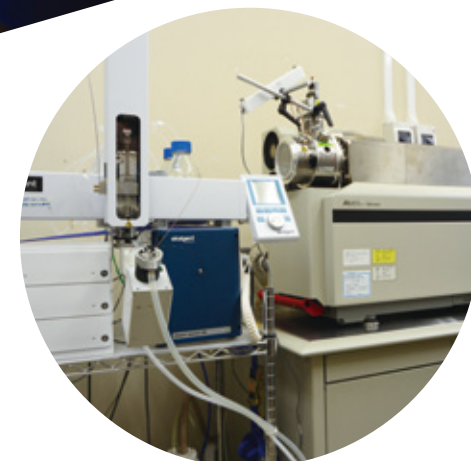
2015.7  
学会でのポスター発表の様子です。学外の研究者の方々に囲まれての発表は研究室内での発表とはまた違った緊張感がありました。

2014.9  
毎年夏頃に研究室旅行が企画されます。人吉の球磨川下りや球磨洞探検など、みんなで和気あいあいと楽しみました。

2014.5  
毎年春には研究室対抗の野球大会に参加しています。野球経験者の学生を中心に上位入賞を目指して白熱した試合を繰り広げました。

## 質量分析装置

分子標的薬をより有効に使うため、分子の数を正確に計測する装置





# 進化する特別支援学校

～一人ひとりの教育的ニーズに応える研究拠点～

現在、知的障がいのある小学部・中学部・高等部の児童・生徒61人が学ぶ同校は、開校当初、当時の特殊教育が手探り状態の頃から、先導的教育研究をバックグラウンドとした質の高い教育を進化させてきました。



昭和25年開設当初の教室の様子

## 昭和25年 附属小学校の特殊学級として発足

学校教育法制定後、間もない中、附属小学校(当時は「附属」と表記)に特殊教育実験学級として発足。全国では、学習の遅れを取り戻す教育にとどまっていた中、発足当初から社会生活への適応を図るための教育を実践しました。

## 昭和40年 附属養護学校(京町校舎)の創立

特殊学級から独立。国立大学の養護学校としては4校目の設立でした。昭和42年には全国に先駆けて高等部設置が認可され、就労など一層の社会適応を高める教育を実践してきました。

## 平成27年 創立50周年を迎えた附属特別支援学校

昭和46年に現在の黒髪校舎へ移転し、平成19年に附属特別支援学校に校名変更。一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導支援を実践研究してきました。自立と社会参加のための一貫した教育実践とアフターフォローにより卒業のない学校と呼ばれています。

# 創立50周年イベント

～これまでの50年そしてこれからの第一歩～

子どもたちが描いた「夢と希望」の絵が、体育館正面の外壁に大きく描かれました。教育学部美術科の松永拓己准教授が原画にまとめ、学生や子どもたちの手で描画され、平成27年11月2日にお披露目会が行われました。また、同年12月12日には県立劇場で、創立記念セレモニー&コンサートが開催され、50年の歩みを振り返るスライドショーや附属幼稚園・小学校・中学校の子どもたちとのステージ演奏など披露されました。



(左) 学生や子どもたちが壁画を描きました  
(中・右) 熊本県立劇場で開催された創立50周年記念セレモニー&コンサート

# 50年

特集Ⅱ

# 特別支援学校の

熊本大学教育学部附属

昭和40年に開校した同校は、平成27年に50周年を迎えました。  
節目を迎えた同校の教育支援の様子を紹介します。

「いつまでも愛される母校」でありたい。

## 卒業のない学校

～企業から福祉事業所まで多様な活躍の場～

高等部卒業後の進路先は、企業、熊本大学の知的障がい者雇用チーム「愛work」、保育園や老人施設等の一般就労や福祉の事業所への通所など多岐にわたります。丁寧なアフターフォローにより、それぞれの進路先で自立と社会参加をし「卒業式はあっても卒業のない学校」と呼ばれています。



卒業生は店舗や介護施設などさまざまな場で働いています

## 働く意欲を学ぶ

～作業学習やインターンシップ～

生活に生きる国語や算数などの学習に加え、生活経験の拡大や生活習慣の育成など実践的、体験的な学習を行っています。高等部段階では、校内で行う「陶芸」「木工」「さをり織り」作業学習と、企業や福祉施設等でのインターンシップを繰り返しながら、働く意欲や力を培い、自分の進路を自己決定していきます。



(左) 企業でのインターンシップでのり巻を巻く生徒 (中) 料理など体験を通して学びます (右) 児童・生徒たちが制作した織物

坂下 玲子 校長

「教育学部の学生には共生社会を学ぶ場、本校の子どもたちは「いつでも帰ってこられる拠り所」であり続けたいです」



牛野 忠男 副校長

「社会の変化を乗り越え自分らしく生きる力を伸ばす教育、地域の核となる学校づくりを目指します」

## 研究推進と地域還元

～コミュニケーション能力を育み、意欲的マインドを大切に～

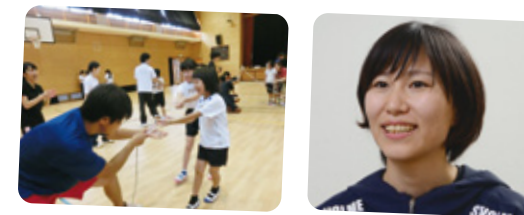
障がいのある子どもたちが、これからの共生社会で多様な価値観を持つ人々とともに協力・協働しながら生きていくために、コミュニケーション能力を育む実践研究を行っています。「自分を伝える喜び」「相手を理解する喜び」といった子どもたちが意欲になれるマインドを大切に授業づくりなどの先導的研究を、研究発表会により地域に還元しています。



## 共生社会を創る次世代教員の育成

～創造力豊かな子どもたちに学生が「教えられる」日々～

教員志望の学生を教育実習等で年間300人以上指導している同校。同校小学部の「大学の名人さん」\*授業で、子どもたちに運動遊びの指導を行った教育学部中学校教員養成課程保健体育科4年の小柳若菜さんは、「私たちの想像を超える遊び方ができる子どもたち。私たちが学ぶことが多い日々でした」と貴重な体験を語ってくれました。



\*学生が教師と連携して、体育や理科など専門分野を生かした指導を行います。



# 熊大で「日本」を学ぶ留学生座談会

## 熊大生に助けられて、やりたいことに取り組みます。

熊本大学には、500名を超える留学生が在籍しています。学位を取得するコースの他に、海外協定校の留学生のための短期留学プログラムなどがあります。ここでは、「日本語・日本文化研修プログラム」で学ぶ4人の話を紹介します。

### 先輩や友人から聞いた「熊本っていいよ」

**チェニア**：以前は大阪で勉強していて、次は九州に行きたいと考えていました。スペイン人の日本の旅行先は東京や関西が多く、九州の生活を知りたかったんです。熊大は、福岡の日本人の友人から勧められました。

**ブランドン**：私も九州に行つたことがなくて、知りたくて来ました。良いプログラムもあつたので、熊大に決めました。将来は日本で働きたいと思っています。

**ポーンナバー**：熊大に留学経験のある先輩から、先生方は教え方が上手だし優しいと聞いていました。

**パウリナ**：私はワルシャワ大学の先生から九州の人は親切だと聞いて。熊大は街のサイズが大きすぎず小さいすぎず、ちょうどいい。実際、自転車でもどこにでも行けるのがいいですね(笑)。それ



留学生サークルで行なったイベントで、留学生の出身国の国旗の前で



に、なんでも機械化されていて便利。驚いたのが自動販売機で温かい飲み物が買えること。  
**ポーンナバー**：熊本の野菜や果物もおいしいですね。

### マジック・パウリナ・マリア

ポーランド出身。ワルシャワ大学東洋学部日本学科日本宗教専攻。目下の目標は日本語能力試験。母校卒業後また来日するつもり。

**チェニア**：私は大阪から来たから、最初はここって日本?と思ったほどごみごみしてなくて、自然が豊かだと思いました。買い物をして、店員さんと雑談をする余裕は、都会にはなかったから。  
**ブランドン**：私の母校はパリ市内にあつて緑があまりないんです。熊大は緑が多くて気持ちいい。こういった環境で学べるのは、熊大ならではのですね。

## 国際交流



### 日本人と留学生、交流できる場がたくさんある

**ポーンナバー**：熊大は図書館がいい。いろんな本があるし、調べ物をして無料で印刷できるのもありがたいです。熊大の学生もみんな図書館で一生懸命勉強してる。

**ブランドン**：はじめですよ、熊大生はそれに僕たちを助けてくれることが多い。  
**チェニア**：私は熊大に来て剣道を始めたんです。お面などの道具は先輩たちが譲ってくれました。やりたいこと

### チェニア・フェルナンデス・フレジネ

スペイン出身。バルセロナ自治大学で日本文化専攻。母校卒業後は日本の大学院に進学し、日本文化研究を進めることが目標。



は、仲間のおかげで、できていますね。  
**パウリナ**：所属するプログラムは、留学生向けの授業だけでなく日本人学生向けの授業も受けることができます。留学生向けの授業でさまざまな国の人の考え方を知り、日本人学生向けの授業で日本の現代文化を深く理解できるので、良い経験になります。

### 留学は、違う考え方を知る大きなチャンス

**ポーンナバー**：大学はいろんな人と考え方に



グローバル教育カレッジ交流ラウンジには様々な国からの留学生や日本人の学生が集まります

出会うところ。留学して違う国の人に出会うこともすばらしいと思います。

**ブランドン**：怖がらず別の世界に自分で行き、自分の目で見ることは大きなチャンスだと思います。フランスの学生は9割が留学したいと考えていますよ。

**パウリナ**：私は、母校での専攻が日本の宗教なんです。ポーランドではキリスト教がすごく大事だけど、日本に来て宗教なしでも生きられると知りました。それにはいい面も悪い面

### テスタ・ブランドン・エリック・ロバート

フランス出身。パリ・ディドゥロ第7大学で日本経済を学ぶ。留学が終わってもまたすぐ来日予定。日本で就職することが目標。



### ポーンナバー・ケオターヴォン

ラオス出身。ラオス国立大学で日本語専攻。目下の目標は日本語能力試験N1合格。帰国後は卒論に取り掛かる予定。



もあり、他国の伝統や文化を知ることが本当に価値があると思います。  
**チェニア**：国によって違う考え方や伝統を理解することで世界って平和になるんじゃないかなと思います。留学のチャンスがあればぜひ生かしてほしいですね。

## 日本語・日本文化研修プログラム

日本語・日本学を専攻する海外の学生を国費留学生として1年間受け入れるプログラムです。文学部に所属し、日本語や日本文化に関する専門分野の研究を行う上で必要な知識や技能を身につけます。毎年約10名を世界各国より受け入れ、これまでに200名以上が学んでいます。

## 国際交流レポート (12月〜2月)

12/2 「熊大グローバルYouthキャンパス」事業 海外語学セミナー 成果発表会を開催  
春季・夏季休暇を利用した7つの短期語学セミナーの参加者がそれぞれ発表を行いました。熊本県内の高校生も参加し、先輩学生の発表に興味深く耳を傾けていました。



12/5 熊本留学生交流推進会議主催の多文化共生留学生シンポジウムに本学留学生が参加

12/16 熊本大学留学生交流パーティーに150人が参加

12/21 国際先端医学研究機構(IRCMS)インターンシッププログラムを実施(3月11日まで)

本学としては初の取り組みとなる、英国ウクライナ、中国、マレーシア、エストニア、タイ、イタリア、カ国の大学在籍学生8人を受け入れてのインターンシッププログラムを実施しました。学生はIRCMSの各研究室にて実験等の研修に参加しました。



1/19 ムヒンピリ医科大学(タンザニア)と大学間交流協定を締結

本学イギリス学術センター・大学院生命科学研究部・大学院医学教育部が2009年に締結した部局間交流協定を大学全体に交流拡大するため、エリギスリヤム副学長ご訪問のもと、本学で調印式が行われました。

1/20 コンケン大学(タイ)医学部長が原田学長を表敬訪問

1/21 東亜大学校(韓国)からの訪問団が学生と交流

大学間交流協定を締結している東亜大学校(韓国)から学生、教職員15人が本学を訪問し、本学学生と交流を行いました。

1/23 五高記念館 外国語ガイド講座 2015 ガイドツアーを実施

今年で3回目となる五高記念館外国語ガイド講座を留学生や一般市民18人の参加で開講し、その総仕上げとして、受講生による英語・中国語・韓国語のガイドツアーを実施しました。

2/10 パテイン大学(ミャンマー)と大学間交流協定を締結

本学工学部・理学部及び大学院自然科学研究科が2015年に締結した部局間交流協定から交流分野を拡大し本協定を締結しました。2月12日には、自然科学、薬学、工学の領域の融合の観点から新たな国際連携研究教育の立ち上げをテーマに、国際シンポジウム「日本・ミャンマー国際シンポジウム2016」を開催しました。



2/15 熊本大学スプリングプログラム 2016を実施(24日まで)

通常夏期に行っているサマープログラムの機会拡大として初めて実施され、交流協定校から39人の留学生が参加しました。日本語学習や日本文化体験などの他、22日は「留学生とMeet & Greet」という国際交流イベントで県内高校生41人との交流を楽しみました。



## 薬学部 臨床・研究・教育をこなす スーパー薬剤師が目標



佐藤 雄己  
Yuhki SATO

大分大学医学部附属病院  
薬剤部  
薬剤師

薬学部薬科学科 平成11年度卒  
大学院薬学研究科  
博士前期課程薬科学専攻  
平成13年度修了

昭和53年生まれ、大分県別府市出身。大分県立別府青山高校(現:別府翔青高校)卒業後、熊本大学薬学部を経て熊本大学大学院へ。平成12年に薬剤師免許取得。大分大学医学部附属病院入職後、平成20年に博士(薬学)取得。

**熊大のココがイイ!**  
充実した教育・研究環境と個性的な先生・仲間に出会えるところ。

### 高校時代の夢は数学者 大学で薬学の魅力に取りつかれた

高校生の頃は、数学者になることが夢でした。高校3年生になって担任の先生から「これから薬学が必要な時代がやってくる」と言葉を頂き、好きだった数学と理科も学べる薬学の道へ進もうと決めました。それでも将来は数学者になろうと本気で考えていましたが、進学後、薬学の魅力に取りつかれました。

### 薬学の楽しさ、厳しさを知り 探究心を培った研究生活

野球経験はありませんでしたが、1~3年に薬学部の手硬式野球部に在籍。部活では、厳しくも、優しく楽しい先輩、同期、後輩に恵まれ、コミュニケーションの重要性を学びました。4年生からは生活が一変、研究生活へ。昼夜逆転もしばしばでしたが、恩師のおかげで、薬学研究の楽しさ、難しさを学ぶことができ、探究心を培うこともできました。それが今の仕事に生かさせていると感じています。

### 臨床業務のほかに 研究も続行中

大学病院で、調剤、服薬指導などの臨床業務、医・薬・看護学生教育などの経験を積む一方、薬物動態、薬物相互作用などの研究を続けています。患者さんに最適な薬物治療ができるよう日々模索しながら、医療の発展に貢献できる新しいエビデンスを構築できればと思います。臨床・研究・教育をすべてこなせるスーパー薬剤師が目標です。

## 医学部 病気があってもよりよい人生を。 人に役立てる仕事に誇り



片岡 千絵  
Chie KATAOKA

熊本大学医学部附属病院  
看護師

医学部保健学科看護学専攻  
平成19年度卒

昭和61年生まれ、福岡県太宰府市出身。福岡県立西南学院高等学校卒業。熊本大学医学部保健学科入学、看護師・保健師の免許を取得。その後平成20年に熊本大学医学部附属病院へ就職。趣味はパン作り、ヨガ。

**熊大のココがイイ!**  
先生、学生みんなが温かい。適度な都会と自然が身近にある。

### 保健師と看護師、両方の 免許が取得できると熊大へ

高校生の頃は機械や数学が好きで理系コースに進みましたが、父の病気を入院を経験したことで医療関係を考えるようになりました。また幼い頃から祖父母と一緒に暮らしていたため、健康で長生きすることを助ける保健師にも興味を持ち、保健師と看護師の免許が両方取得できると熊大に決めました。

### 実習の苦労をともにした 友人は今も大切な存在

大学では、とにかく実習が大変だったことを覚えています。朝から夕方まで病院で実習、その後学校で友人と一緒にパソコン室にこもって記録。家に帰って寝るという生活でした。実習をともに乗り越えた友人は今でもいろいろ相談しあえる大事な存在です。アルバイトで貯金して旅行したり、国家試験のために猛勉強をしたり、充実した4年間でした。

### 日々患者さんとともに その人らしい生き方のお手伝い

まずは基本的な知識や技術をしっかり身につけたいと看護師になりました。現在は糖尿病代謝内分分泌内科や腎臓内科を主とした混合病棟に勤務。日々患者さんとともに悩みながら、その人らしく生きることを一番と考え、病気を抱えながらもよりよい人生を送るお手伝いをしています。患者さんとのかわりを通して、社会や人の役に立つことができる仕事に誇りを持ちながら働いています。

## 文学部 英語や中国語を駆使して 海外での営業活動の日々



松村 拓也  
Takuya MATSUMURA

株式会社ムーンスター  
海外推進部 海外推進課  
(福岡)

文学部 歴史学科 世界システム  
史学コース 西洋史学専攻  
平成25年度卒

平成2年生まれ、福岡県久留米市出身。福岡県立久留米高等学校英語科を卒業後、熊本大学文学部へ進学。地元と海外をつなぐ架け橋になりたいとの強い思いから現在の仕事に。5月にアメリカ人の妻と結婚式を挙げる予定。

**熊大のココがイイ!**  
歴史ある五高の流れを汲むキャンパスと研究熱心な教師陣、志の高い学友達。

### 高校時代の留学経験が、 歴史学科を志すきっかけに

久留米市高校生親善大使の一員としてアメリカへ留学したことがあります。その時お世話になったホストファミリーが日本の文化や歴史に興味があり、初めて英語で母国について話をしたのですが、表面的で深い話ができませんでした。その時の悔しさから、大学では英語ではなく歴史を深く研究したいと思い、歴史学科への進学を志しました。

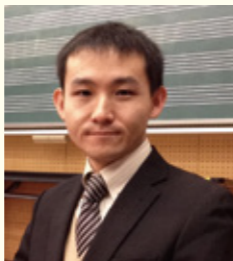
### 真正面からぶつかったから得られた 留学生の友人との絆

正直、挫折を味わったことは何度もあります。しかし、将来海外で働きたいとの思いから積極的に留学生と交流しました。私が歴史学科出身ということで、日本と諸外国との歴史問題という踏み込んだ内容についても、本音で議論したりしました。真正面からぶつかったからこそ、留学生の友達と今でも頻りに連絡を取っています。

### 海外駐在員になることを目標に 靴の海外営業を担当

主に台湾へ出張し現地商談会に参加し、市場調査を行いながら、現地のニーズに合わせた商品の開発、売り込み、マーケティング活動を行っています。仕事がきっかけで始めた中国語と得意の英語を駆使し、最近ではインバウンド需要も意識しながら、日本国内の販促POPの作成・翻訳作業にも仕事の幅を広げています。

## 教育学部 教育研究も行う特殊な現場 時代にあった教育を発信したい



中島 千晴  
Chiharu NAKASHIMA

熊本大学教育学部  
附属小学校  
教諭

教育学部中学校教員養成課程  
音楽科  
平成16年度卒

昭和58年生まれ、長崎県長崎市出身。熊本県立熊本高等学校卒業。熊大卒業後は菊池市立泗水小学校、天草市立御所浦中学校、熊本市立井芹中学校を経て現任教。アマチュアオーケストラでの演奏が一番の楽しみ。

**熊大のココがイイ!**  
古くて新しいところ。

### 14歳で始めた音楽を 一生の仕事にしたいと考えて

小学生の頃から建築士になりたかったので、高校2年生まで理系のクラスに在籍し、建築士を目指していました。しかし、14歳から始めた音楽の方へ興味が次第に移っていき、一生の仕事は何かしら音楽にかかわるものにしたと考えるようになり、教育学部の音楽科への進学を決めました。

### 取り組んだいろいろなこと そのすべてが今に生きている

とにかく忙しくしていたことを覚えています。熊大フィルに入ってひたすら練習と演奏に明け暮れていましたし、一般教養など、専門外の講義も必要以上にとっていました。アルバイト、ボランティアの演奏活動なども、隙間があれば詰め込んでいました。その一つひとつの経験が、仕事のさまざまな現場で生きていると実感しています。

### 家庭科や運動部顧問も経験 これからの教育に生かしたい

小学校担任、中学校担任と音楽、家庭科担当、研究主任、バスケットボール部や合唱部顧問などのさまざまな経験を経て、平成27年度から附属小で3年生以上の音楽専科をしています。通常の小学校教育のほか、教育実習や研究も担う特殊な職場です。専門の音楽に限らず、時代にあった教育を考え、発信しようと努力しています。



本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。  
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちのこれまでの歩みや苦労、そして喜び、楽しみなどを通じて精励するその姿をご紹介します。

## 理学部 苦労するからこそその充実感 学ぶことも多い新製品開発



戸渡 雅明  
Masaaki TOWATARI

住友化学株式会社  
大阪工場  
住化ケムテックス出向

理学部物質化学科  
平成18年度卒  
大学院自然科学研究科  
博士前期課程理学専攻  
平成20年度修了

昭和60年佐賀県鳥栖市生まれ。幼稚園から高校まですべて地元の近場の学校を卒業し、大学から晴れて他県へ進出。趣味はうまいものを食べて、ゴロゴロすること。最近はゴルフを始めて特訓中。

**熊大のココがイイ!**  
学生や先生も含め、とにかくおもしろい人が多い!

### 観察や物作りへの興味と 好きな化学が結びついた

高校生の時は具体的な夢は特にありませんでした。ただ、何かをじっと観察したり、物を作るのが好きだったのでものづくりに携わりたという漠然とした気持ちはありました。教科の中で化学が特に好きだったので、自然とそちらの方向に進むようになったと思います。

### 自由にやらせてくれた研究室 国際学会も刺激に

研究室では朝から晩まで実験...ではなく、実は夜が苦手で、夕方には早々に実験を切り上げ、同じ研究室のメンバーや時には教授も交えてサッカーをしていました(笑)。自由に何でもやらせてくれる研究室で、4年生の時には学会でポーランドにも行きました。研究室に入りたてだったのでデータはほとんど無かったのですが、その道の研究者といろいろ話をできていい刺激になりました。

### 要望に沿う製品開発 うまくいった時はビールがうまい!

現在は「VAEエマルジョンの研究」をやっています。お客さんからの要望に沿う製品開発は制約なども多く大変ですが、うまくいった時にはとても充実した気持ちになります(ビールがうまい!!)。また、そこを変えただけこんなに性能が違うの!?ということも多々あり、学ぶことが多いです。多くの新製品を開発できるようこれからも頑張るぞ!!

## 工学部 生活に欠かせない施設建築の 多岐にわたる現場管理が仕事



高橋 弘和  
Hirokazu TAKAHASHI

日立造船株式会社  
環境事業本部 水処理ビジ  
ネスユニット水処理工事部  
工事第一グループ(福岡)

工学部環境システム工学科  
環境共生工学コース  
平成15年度卒  
大学院自然科学研究科  
博士前期課程環境土木工学専攻  
平成17年度修了

昭和57年生まれ、大阪市出身。大阪市立都島工業高校から国立長岡高専に編入、熊本大学に編入、熊本大学大学院を経て、平成18年アタカ工業(株)に入社、平成26年日立造船(株)に合併、現在に至る。

**熊大のココがイイ!**  
個性豊かな先生や仲間と出会え、タテとココの繋がりが非常に強い。

### ハンドボールの監督になり インターハイ出場が夢

高校時代はハンドボール部で、インターハイ出場を目指し日々練習していました。自分ではインターハイに出場できず、顧問(監督)として目指したいと教員(工業高校)になることを考えていました。高校は土木科だったので大学でもっと専門的に学んで工業の教員免許を取得したいと思い、高専を経て環境システム工学科に編入学しました。

### 部活も研究も 仲間と楽しみががんばった日々

学部ではハンドボール部に所属し、西日本インカレ出場を目指して日々練習していました。研究室配属後は、同期や先輩と釣りに行ったり、温泉付きペンションを貸し切つて、合宿という名の飲み会をしたりしていました。研究では4回ほど学会発表する機会があり、静岡や仙台に行けて楽しかったです。

### 全国各地が仕事場 入社後はずっと長期出張の日々

入社後からし尿処理場の現地工事の現場監督をしています。何も無い土地に、掘削・杭工事、水槽工事、建屋工事を行い、配管・電気工事を行います。その後、試運転して完了です。現場管理では、予算・工程・品質・安全が主な仕事。今までに、奄美大島、和歌山県串本町、鳥根県安来市等に行きました。入社してからずっと長期出張です。

## 法学部 中学時代の経験がきっかけ 子どもの事件に積極的に



松原 理美  
Satomi MATSUBARA

原村法律事務所(熊本)  
弁護士

法学部法学科  
平成20年度卒  
大学院法曹養成研究科  
平成23年度修了

昭和60年生まれ、山口県山陽小野田市出身。山口県立厚狭高等学校卒業後、熊本大学法学部へ。現在は熊本県弁護士会に所属するほか、子どもの人権委員会委員、両性の平等に関する委員会委員、法教育委員会委員等を務める。

### 熊大のココがイイ!

赤煉瓦に桜、緑、銀杏といった趣ある雰囲気が高く、子どもとの距離が近く、何でも質問・相談できることも魅力です。

### どん底の中、 出会った本で弁護士への道へ

中学校3年生でいじめに遭い、どん底の中で私の唯一の救いとなったのが大平光代弁護士が著された『だから、あなたも生きぬいて』という本でした。中学生時代にいじめに遭ったことをきっかけに壮絶な人生を歩むことになった著者が、一念発起して司法試験に合格する話は、当時よくよくよっていた私にとって衝撃的で「この人みたいになりたい」と考えるようになりました。

### 大学時代にできることを 思い切り楽しんだ学部時代

学部、部活動(漕艇部)、サークル(志法会)そしてアルバイトでも仲間に恵まれ、振り返ると毎日が輝いていたと思います。勉強に励んだというよりは、部活、友人との語りや、恋愛など大学時代にできることを思う存分楽しんだという感じです。過去に戻れるなら、間違いなく大学時代に戻りたいです。

### 司法試験に一発合格! 弁護士として充実の毎日

大学院卒業後は奨学金がなくなるため、絶対一発合格!という気合いで勉強。その結果1回目の司法試験で合格し、現在は弁護士として活動しています。特に子どもに関する事件である少年事件、親権争い、いじめ問題等に積極的に取り組んでいます。女性に関する問題および相続問題等の事件数も多いです。



REPORT くもと在来種研究会オープニング・イベント  
ー「第1回在来種フォーラム」ーを開催しました

熊本大学では、地域に古くから根ざしてきた作物や有用植物の保全・普及を目的とした「くもと在来種研究会」を設立しました。

3月17日(木)、オープニング・イベントとして、熊本大学地域創生推進機構、大学院薬学教育部、薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンターの主催で「第1回在来種フォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、全国で再評価されている「伝統野菜」や在来種について、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂代表や国立科学博物館植物研究部の田中伸幸研究員による基調講演が行われました。後半は、熊本で

在来種保全に関わってきた民間の方を交えた討論を行い、熊本での在来種の保全や普及の在り方について、会場の皆様と共に議論を行い、盛会のうちに幕を閉じました。



フォーラムの様子

REPORT 熊本城マラソン2016でランナーの救護活動を行いました

2月21日(日)に行われた「熊本城マラソン2016」で、医学部附属病院循環器内科の小島淳医師(心不全先端医療寄附講座特任准教授)をはじめとする医師、看護師、事務、医学部学生総勢21名がランナーの救護活動を行いました。

今年で5回目を数えた熊本城マラソンですが、毎年熊本大病院として救護所を2カ所(南熊本と川尻)設置しています。テント以外にも、メディカルランナーとして熊本大病院から11人の医師、看護師、技師がスタートからゴール地点までの42.195kmを走りながら必要な救護にあたりました。

今年は最高気温が10度程度でしたが、日陰に入ったり風が吹いたりすると肌寒く感じられました。本大会中における救急搬送事例は8件で低体温や脱水、筋痙攣などが見られましたが、重篤な事案の発生は認められず、無事大会も終了いたしました。



INFO 熊本大学埋蔵文化財調査センター「地下と地上の文化財散歩」

本学は県内有数の遺跡の上に立地しています。改築工事に先立つ発掘調査では、地下から過去の生活の痕跡が見つかります。「地下と地上の文化財散歩」では、黒髪地区、本荘地区のキャンパスを巡りながら、縄文時代から近代までの地下と地上の歴史をご案内いたします。

【開催日時・場所】

- ・5月16日(月)・17日(火) 13:00～  
本荘キャンパス(集合:本荘北キャンパス  
熊本大学医学部附属病院 外来診療棟玄関)
- ・5月18日(水)～20日(金) 13:00～  
黒髪キャンパス(集合:黒髪南キャンパス  
総合情報統括センター玄関)



※少雨決行。荒天時中止。雨天時は電話かHPで開催をご確認ください。

【参加対象者】  
どなたでも(申込不要/無料)



【問い合わせ】  
埋蔵文化財調査センター  
TEL: 096-342-3832  
URL: <http://www.kumamoto-u.ac.jp/organizations/maibun>

REPORT 第10回JFMA賞(技術賞)を受賞しました

工学部建築学科大西康伸准教授(研究室)と安井建築設計事務所、総合警備保障、ALSOK、加賀電子が取り組んでいた産学共同研究「BIMを活用した施設維持管理システムの開発とその運用」がこの度、第10回JFMA賞(技術賞)を受賞しました。

共同開発したICTやセンシング技術を応用した施設マネジメントシステムが、今後良好な建物ストックを形成することに寄与する点で高く評価されました。なお、JFMA(日本ファシリティマネジメント協会)は日本最大のファシリティマネジメントに関する推進組織です。



受賞した大西准教授

REPORT 熊本県、株式会社肥後銀行、一般社団法人熊本県工業連合会及び株式会社リバネスと「次世代ベンチャーの発掘・育成に向けた連携協定」を締結しました

平成28年2月9日、本学は熊本県、株式会社肥後銀行、一般社団法人熊本県工業連合会及び株式会社リバネスと、熊本県内における次世代ベンチャーの発掘と育成に向けた連携協定を締結しました。

これまで熊本県、株式会社肥後銀行、一般社団法人熊本県工業連合会及び本学は、熊本県内における「産・官・学・金」連携促進に取り組んできましたが、今後さらにこれを強化し、大学・企業・開発者等の次世代技術を発掘し、ベンチャーを創出・育成するプラットフォームの構築と運営を開始します。

これにあたり、ベンチャー発掘・育成を行う株式会社リバネスが、これまでに培ってき

たものづくり・バイオ・アグリ分野の技術に対する目利き力や運営ノウハウを提供し、プラットフォームの構築とその運営に参加することになりました。

今回の連携協定締結を機に五者は、平成28年度より、熊本県内の大学等研究機関及び企業等から次世代技術の発掘、それらに対する創業支援及びハズオン支援を行い、将来的にグローバルに活躍するメガベンチャーを創出し、熊本県内での新産業創出、雇用促進に繋げることを目指します。



熊本県庁で行われた調印式において、協定書を持つ各代表者(左から、原田熊本大学長、甲斐肥後銀行代表取締役頭取、蒲島熊本県知事、丸リバネス代表取締役、足立熊本県工業連合会代表理事・会長)

REPORT 日立造船株式会社及び熊本県と包括連携協定を締結しました

国立大学法人熊本大学、日立造船株式会社、熊本県 包括連携協定調印式



熊本大学工学部百周年記念館で行われた調印式において、協定書を持つ各代表者(左から、原田熊本大学長、谷所日立造船株式会社取締役社長兼 COO、蒲島熊本県知事)

平成28年2月15日、本学は日立造船株式会社及び熊本県と包括連携協定を締結しました。

これは、日立造船株式会社が熊本県の企業誘致活動により、平成28年1月に熊本県長洲町の有明工場内に、先端技術を研究する「有明研究室」を設置したことを機に、本学との間で人的・知的資源の交流、人材育成及び研究開発を充実させ、熊本県はそれらを効率的かつ円滑に進められるよう支援し、もって地域社会の発展に資することを目的としたものです。

熊本大学は「オール熊本」で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラムCOC+」、日立造船株式会社は有明研究室における「最先端のものづくり技術の導入」、熊本県は「地方創生」と「知の集積」をそれぞれ推進しており、三者は今回の協定締結によってこれらの取り組みを有機的に連携させ、熊本県の産業振興、雇用拡大及び学卒者の地元定着率増加を目指します。

REPORT 海外の大学生及び大学院生を対象としたインターンシッププログラムを実施しました

平成27年12月から平成28年3月までの間、国際先端医学研究機構(International Research Center for Medical Sciences: IRCMS 須田年生 機構長)は、先端医学研究に強い関心及び意欲を持つ外国の大学に在籍する学生を迎え、インターンシップ学生受入プログラムを実施しました。

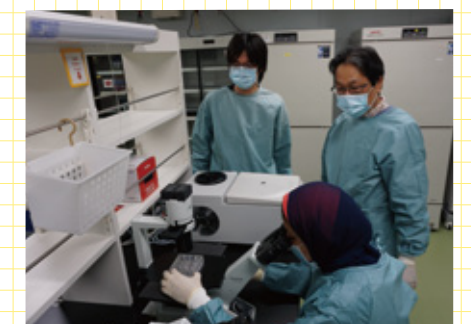
今回は、英国、ウクライナ、中国、マレーシア、エジプト、タンザニア、イランの7カ国から8名が本プログラムに参加し、IRCMSの充実した研究環境においてPI(主任研究者)の指導の下、エイズ、ATL、造血分野について、より高度な実験手技などを少しでも多く学んで帰りたいと日々積極的に研究に取り組んでいました。

参加学生からは、近い将来、熊本大学に大学院生やポスドクとして戻ってきたいという声が多く寄せられました。IRCMSでは、目標の一つとして外国人の大学院生や研究者の割合が50%になることを目指しており、



学長訪問時のインターン生と指導教員

今後更に国際的な環境作りを進め、大学のグローバル化の牽引と、最先端の医学研究の活性化を推進していきます。



IRCMS BSL3 実験室での指導



## 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№33 (平成27年12月1日～平成28年2月29日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約6億3707万円(平成28年2月29日現在)のご寄附をいただき、臨床医学教育研究センター建設や本学学生の留学支援、課外活動支援、60年史編集事業等、研究・教育に資する事業に取り組みをいただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成27年12月1日から平成28年2月29日までの間に入金を確認させていただきました個人159名、8法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

### 1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※( )内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【100万円】	中武 成信			
【50万円】	高濱 和夫(100)			
【30万円】	牧野 雄二(50)			
【25万円】	今村 遼平(145)			
【20万円】	福島 英生			
【10万円】	遠藤 文夫(20)	河野 文夫	菅野 幸裕(80)	菊池 健(210)
【5万円】	草場 辰哉	草場 雅子	柴田 貴徳(7)	富永 雄吉(22)
【5万円未満】	浦塘 浩義	鮫島 峰子(4)	田島 恭子(2)	村本 順一
	4347 同窓会有志一同			

### 2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[ ]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

揚松 龍治	足立 博紀	石飛 光章[2]	泉 文治[2]	浦田 修行	王 爽	大石 空
大久保 弘人	大嶋 秀一	尾原 祐三[3]	木下 忠嗣	木村 圭志[2]	木村 忠司	久米 修一
小林 広幸	相良 勝郎[6]	白倉 三徳	杉尾 俊之	鈴木 実	高橋 真一	田代 和弘
田爪 邦士	田村 禎一	田村 友記子	千島 英一[4]	寺崎 博	東矢 俊光	友枝 新一
中川 和浩	永田 卓生	中村 恒雄	波多野 恭行[5]	林 茂	原口 修	原口 洋吾[3]
深水 郁子[2]	藤井 宣章[6]	古庄 精一[3]	前田 定男[2]	松本 泰道[3]	宮本 英七	森 秀樹[2]
両角 光男[7]	矢野 恵美子	矢野 登久男	山下 裕也	山田 治子	湯治 秀郎[2]	横井 瞭子
吉田 裕利						
株式会社タカサキ	桑原クリニック[4]		ニプロファーマ株式会社			
有限会社輔仁薬局	有限会社八幡西調剤薬局					

### 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人80名、2法人団体等

## INFO 「第3回熊本大学九州連合同窓会」が開催されます

第3回となる熊本大学九州連合同窓会が次により開催されます。

今回は、現熊本機能病院顧問で、本学の理事・副学長も務めた小野友道先生が講演を行う予定です。

皆様、是非奮ってご参加ください。

日時/平成28年7月16日(土)

15:00~19:00予定

場所/ホテル日航熊本

参加費/7,000円予定(交流会参加者のみ)

お申込み方法/ご氏名・ご住所・電話番号・卒業学部・卒業年・FAX番号・交流会参加の有無をご記入の上、FAX又はEメールでお申込みください。

(受付は5月以降)

※詳細は熊本大学ホームページに掲載予定。

※お問合せ先/熊本大学マーケティング推進部 社会連携課 基金・同窓会事業室

TEL:096-342-2029

FAX:096-342-3239

E-mail:kik-doso@jimu.kumamoto-u.ac.jp



第2回開催の様子

## REPORT 平成27年度の感謝状贈呈・学生表彰を行いました

平成27年度の課外活動指導者に対する感謝状贈呈および学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、または顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。また、課外活動指導者に対する感謝状の贈呈もあわせて行っています。平成27年度は課外活動指導者2名に感謝状を、4団体および個人15名に表彰状を授与しました。

### 課外活動指導者に対する感謝状贈呈者

指導者名	指導期間	指導団体名
桑原 賢二	35年	アイスホッケー部
坂田 礼司	28年	ダイビング部

### 学生表彰者(学業成績優秀者除く)

<団体>

団体名	大会等名	種目等名	成績
ダイビング部	第22回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	大学対抗200mフリッパーリレー	1位
		主将・副将リレー	1位
	第47回関東学生潜水連盟フリッパー競技会	男子400mリレー	1位
		男子400mメドレーリレー	1位
		女子400mリレー	2位
		女子400mメドレーリレー	1位
		総合優勝	
弓道部	第51回九州学生弓道新人戦指宿大会		女子最優秀射技校
アイスホッケー部	第36回九州学生アイスホッケーリーグ戦		優勝
LinKuma	平成27年度 学生企画支援事業「きらめきユースプロジェクト」 事業名: オープンキャンパス学生企画		最優秀

<個人>

サークル名	氏名	所属	学年	大会等名	種目等名	成績
ダイビング部	岩崎 真和	理学部	4年次	第22回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	400m フリッパー男子	1位
ダイビング部	寺島 康太郎	法学部	4年次	第22回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	100m フリッパー男子	1位
ダイビング部	福山 徳明	法学部	4年次	第22回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	50m フリッパー年齢別	2位
ダイビング部	河津 佳恵	教育学部	2年次	第22回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	200m 潜泳女子	3位
				第47回関東学生潜水連盟フリッパー競技会	潜泳女子200m	1位
ダイビング部	枳穀 真太郎	工学部	2年次	第47回関東学生潜水連盟フリッパー競技会	男子400m	3位
ダイビング部	辻松 真菜	教育学部	1年次	第47回関東学生潜水連盟フリッパー競技会	新人女子200m	2位
弓道部	平山 愛梨	工学部	1年次	第51回九州学生弓道新人戦指宿大会	女子個人の部	優勝
少林寺拳法部	塚本 健太郎	理学部	2年次	第46回少林寺拳法全九州学生大会	男子有段単独演武	優勝
陸上競技部	岩永 匡史	教育学研究科	2年次	第70回九州陸上競技選手権大会	男子 4x400m	優勝
				第68回全九州都市対抗選手権大会	男子メドレーリレー	優勝
陸上競技部	高岡 晃	教育学研究科	2年次	第70回九州陸上競技選手権大会	男子 4x400m	優勝
				第68回全九州都市対抗選手権大会	男子メドレーリレー	優勝
陸上競技部	立石 卓也	工学部	4年次	第70回九州陸上競技選手権大会	男子 4x400m	優勝
陸上競技部	田口 泰広	教育学研究科	1年次	第70回九州陸上競技選手権大会	男子 4x400m	優勝
陸上競技部	金子 和幸	教育学部	3年次	第68回全九州都市対抗選手権大会	男子メドレーリレー	優勝
陸上競技部	佐々木 拓	文学部	4年次	第68回全九州都市対抗選手権大会	男子メドレーリレー	優勝
陸上競技部	西見 泉美	教育学部	2年次	第43回九州学生陸上競技選手権大会	女子 800m	優勝



平成29年度

# 新しい入試を始めます！ グローバルリーダーコース入試

旧制**五高**の  
伝統と精神を  
受け継ぎ、  
未来につなぐ

## GOKOH School Program

Carrying the Tradition and Advancing with the Spirit

グローバルな視点 **G**lobal perspective  
開かれた心 **O**pen-mindedness  
知識構築は **K**nowledge building for  
最大限の可能性を引き出し **O**ptimal possibilities and  
より高い目標へと導く **H**igher goals

この写真は、第五高等学校当時(明治23年)のイメージで、現在の赤門と本館(現:熊本大学五高記念館)の写真を合成したものです。

 Kumamoto University

熊本大学学生支援部入試課

TEL.096-342-2148 FAX.096-345-1954

E-mail: nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp

http://www.kumamoto-u.ac.jp/